JP

6.2.9 コンフォートコントローラのリセット

A03、A06、A07 のエラーが発生した場合は、必ずコンフォートコントローラをリセットしてください。

- キー 1（▲）と 3（▼）（図 38）を同時に 5 秒間押し続けます。

システムメッセージが消え、温度表示に戻ります。

7　点検とメンテナンスについて

感電の恐れあり！
ユニットには電圧がかかっています。
ユニットを開ける前には必ず電源を切り、
誤って電源が入らないように、
特にご注意ください。

7.1 一般情報

冷気循環経路はメンテナンスフリーの密閉システムを採用しています。クーリングユニットには製造時に充分量の冷媒が充填されており、密閉状態をチェックした上で、更に機能性試験が行われています。

内蔵されたメンテナンスフリーのファンにはボールベアリングを採用しており、湿気や埃から保護します。ファンは温度モニターがはめ込まれています。使用寿命は最低 30.000 時間です。そのため、クーリングユニットは長期間メンテナンスが不要になります。外部の空気循環経路に設置されている機器のみ、汚れ具合を見ながら掃除機や圧縮空気で適宜お手入れをしてください。油汚れがこびりついた場合などは、水系洗浄剤など不燃性の洗浄剤で取り除いてください。

メンテナンスの間隔：2000 時間となっています。使用環境における空気の汚れ具合によっては、大気中の浮遊物質の量に応じてメンテナンスの間隔が短縮されることがあります。

注意！
やけどの恐れあり！
クリーニングの際には、絶対に可燃性の
製品を使用しないでください。

メンテナンスの手順：

– 汚れ具合を確認します。
– フィルターが汚れていたら、 必要に応じて交換します。
– クーラーの羽が汚れていたら、　必要に応じてクリーニングします。必要に応じてクリーニングします。
– テストモード運転をして、冷却機能に異常がないかチェックします。
– コンプレッサーやファンに雑音がないか確認します。

7.1.1 圧縮空気でのクリーニング SK 3304.xxx/SK 3305.xxx

図 41：　接続プラグを抜く

図 42：　上のプラスチックルーバーを取外す

図 43： 下のプラスチックルーバーを取外す

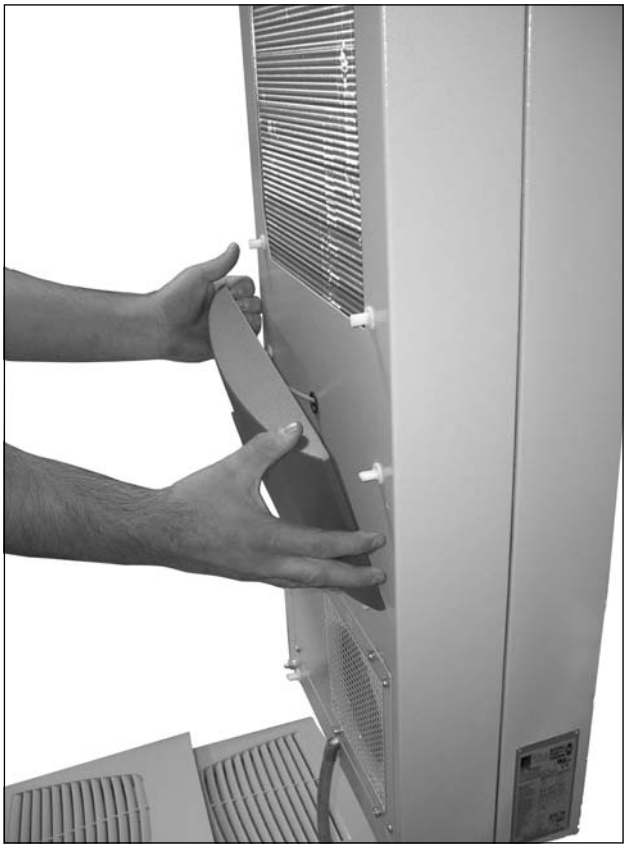

図 44： ベルト部を取外す

図 45： モニターのプラグを抜く (1)

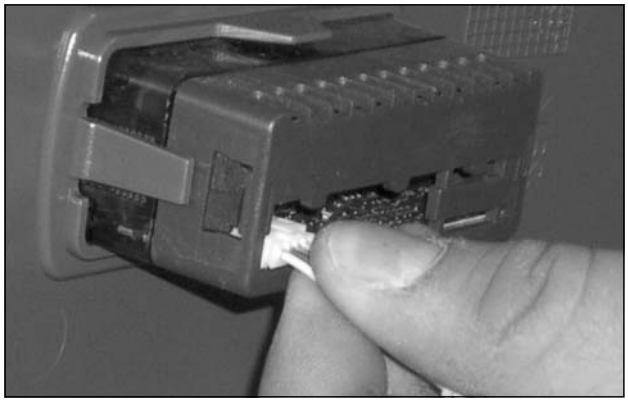

図 46： モニターのプラグを抜く (2)

JP

図 47： ルーバーを外したーリングユニットの様子

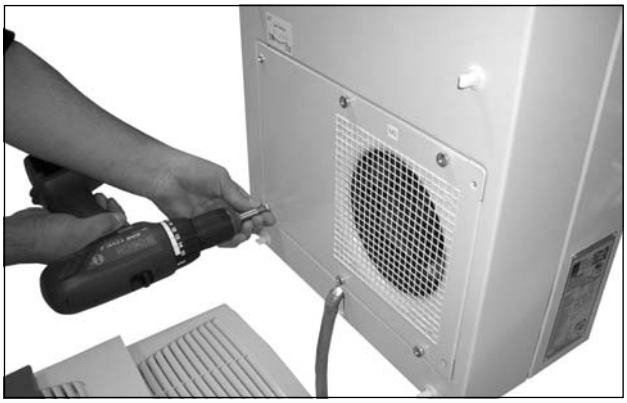

図 48： 外部循環経路用のファンを取外す
（4 ケ所のネジを外す）

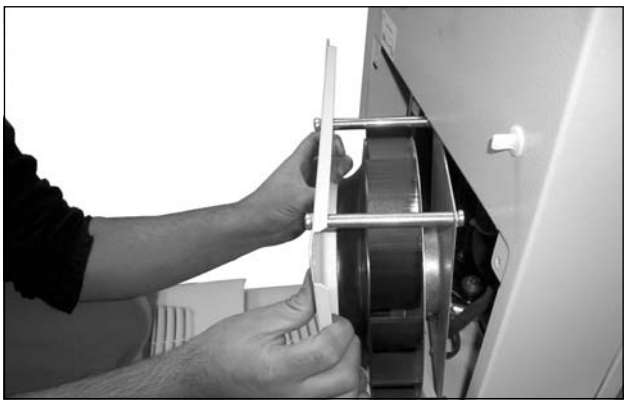

図 49： ファンの取外し

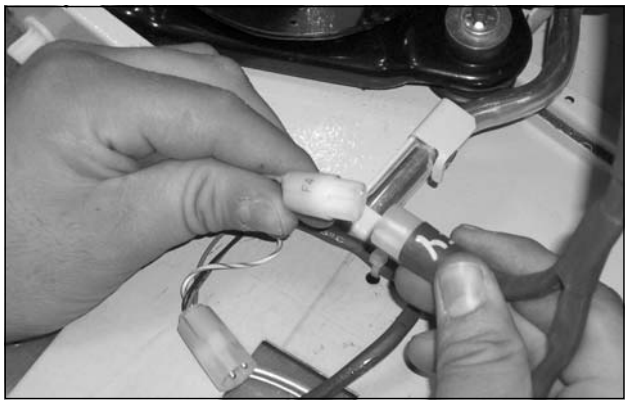

図 50： ファンのプラグ接続を外す

図 51： カバーを取外す（4 ケ所のネジを外す）

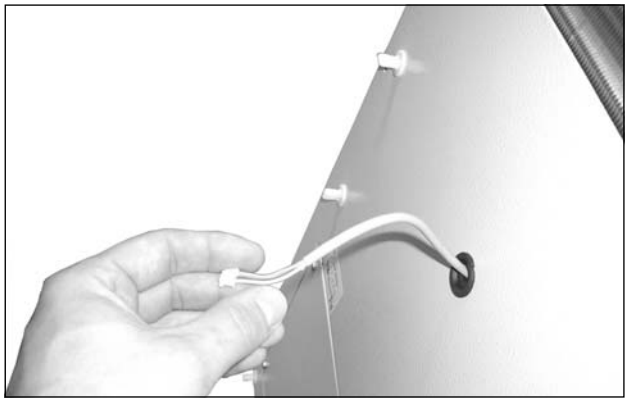

図 52： モニターケーブルを押し戻す

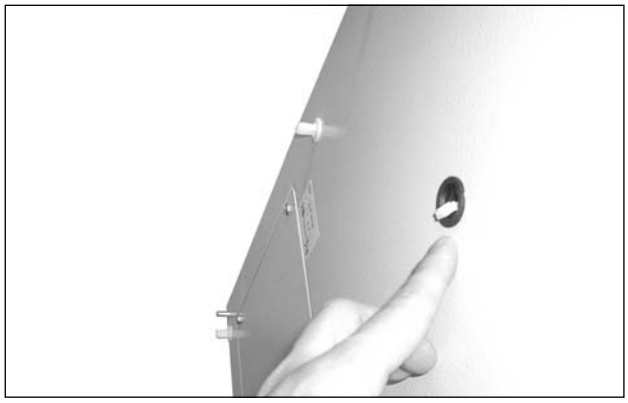

図 53： モニターケーブルをケーブルの引込み口に押し込む

図 54： カバーを取外す (1)

図 55： カバーを取外す (2)

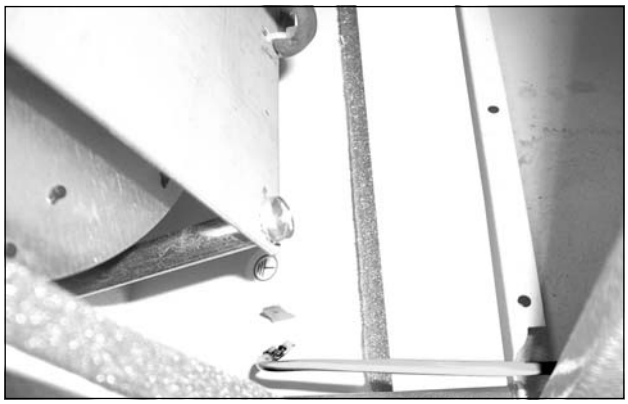

図 56： カバーとセクションの間にあるアースケーブルを外す (1)

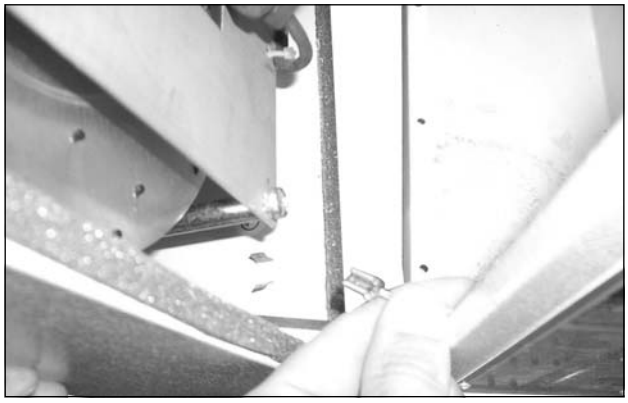

図 57： カバーとセクションの間にあるアースケーブルを外す (2)

図 58： ヒートエクスチェンジャー部分とコンプレッサールームの汚れを圧縮空気で吹き払う (1)

JP

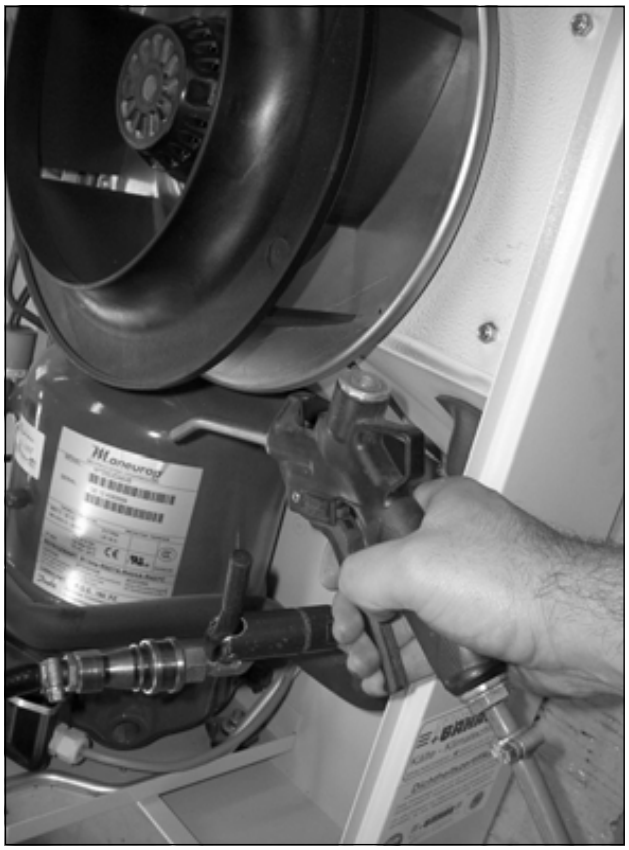

図 59： ヒートエクスチェンジャー部分とコンプレッサールームの汚れを圧縮空気で吹き払う (2)

7.1.2 圧縮空気でのクリーニング SK 3328.xxx, SK 3329.xxx, SK 3332.xxx

図 60： 接続プラグを抜く

図 61： 上のプラスチックルーバーを取外す (1)

図 62： 上のプラスチックルーバーを取外す (2)